



田中 滉己さん

(24歳)
田中農園

新連載
HiBI-OGORI

Vol.1

日々 おごおり。

地域おこし協力隊が日々であう
おごおりの魅力的なひと、コト。
毎月ひとつ、紹介します。

今回の担当は山田です。



「農業を始めてから、毎日むちやくちや楽しいんですよ」

田中さんは、屈託のない笑顔で迎えてくれました。干潟生まれの干潟育ち。現在、7か月の長男がいるお父さんで、家族と一緒にチンゲンサイなどを栽培しています。ハウスに一歩足を踏み入れると、丸いカーブを描くプリプリの葉がぎっしり。ハウス中、優しい香りでいっぱい。「元々農業をするつもりはなかった」という田中さん。ある時、干潟の農業法人から声をかけられ体験作業をしたところ、「これはおもしろい！」と直感。そこで働くことになりました。5年間働く中で、「自分でやってみたい」という思いが芽生えてきます。その後、家族や勤務先の応援を受けて、独立。「田中農園」としての挑戦が始まりました。

田中さんが日々大切にしているのは、楽しい農作業。もちろん、力仕事やきつい姿勢での長時間作業など、農業は簡単な仕事では到底ありません。そこに家族と一緒に取り組んでいることに感謝し、かける言葉ははいねいに選んでいるといいます。「仕事でも家族といられるのは、

本当に幸せなこと。だからこそ、いい空気を作っていきたい」

チンゲンサイの出荷は今年の4月から始まったばかり。「試行錯誤は続いていますが無事に出荷できたことでホッとし、趣味の筋トレを再開しました」とニコリ。「田中農園をもっと大きくしたい」と語る横顔は、明るい覚悟で満ちていました。

(右)長男の善己くん

(左)一面にひろがるチンゲンサイ畑

